

2003 . 6

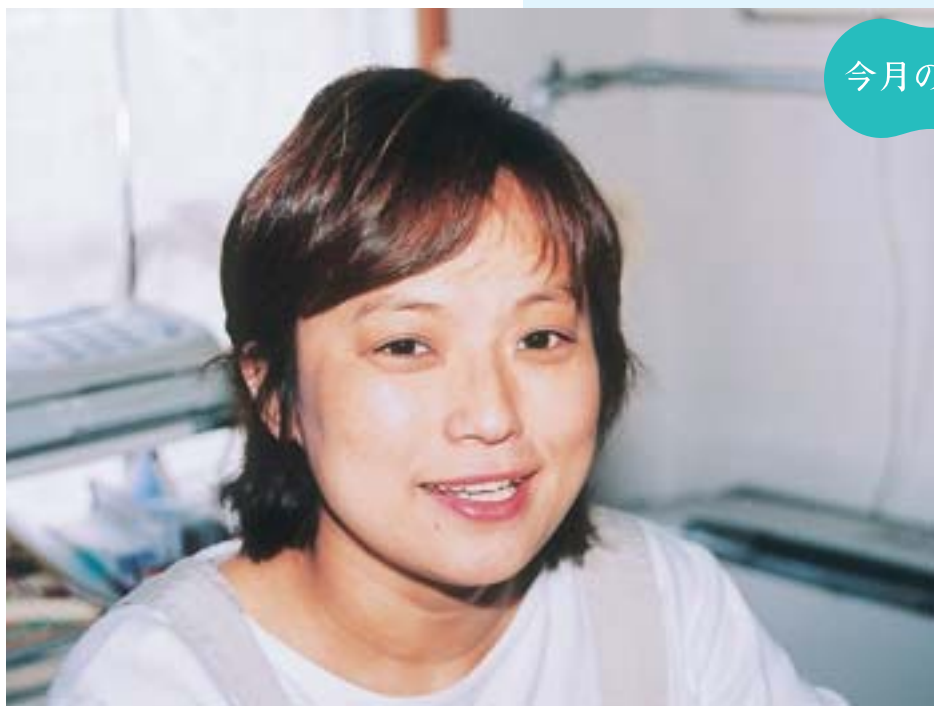
# 白石区民のページ page

白石区インターネットホームページ  
<http://www.city.sapporo.jp/shiroishi/>  
白石区民公式サイト「shiroishi.org」  
<http://www.shiroishi.org/>

色鉛筆で描かれた動物がページの世界を元気に跳ね回る。のかなかな自然の描写と相まって心にはほのかなぬくもりが染み入るのを感じた。絵本の手作りに取り組む斎藤克恵さんの作品を初めて見た時の感想だ。斎藤さんは、雑誌の編集と福祉関係の仕事をこなす一方、自らの作品作りのほか、「手作り絵本わらべの会」で大型絵本の共同制作や展示会などにも参加。一男一女の母親でもある。

長男が生まれた時、知人から贈られた絵本がきっかけで絵本好きになった。十八年前のことだ。「絵本は、易しい言葉で真実や大切なことを感じさせてくれる。温かい気持ち

ちが伝わってくるのが新鮮でした」と当時を振り返る。三年後夫との別離。幼い二人の子どもを抱え、子育てと仕事に追われる生活が続いた。幾度となく自信を失いかけたが、子どもたちに大好きな絵本を読み聞かせる時間が傷ついた心を癒やしてくれた。そんな時期に何げなく立ち寄った区民センターで絵本の手作りサークルに巡り合う。「自分の思いが世界でたった一冊の絵本になる。それが既成の絵本にはない魅力でした」と斎藤さん。もともと絵や文章を書くのが好きだったため、すぐに夢中になった。物語の創作から割り付け、描画、製本まですべてが手作業。完成まで



今月の

人

さいとう  
**斎藤 克恵さん** (四五)

絵本の手作りに情熱を傾ける

(栄通在住)

世界中で一冊だけの絵本。子どもがいつまでも大事にしてくれるものを作りたいですね。

数カ月かかることもある。子どもたちの喜ぶ顔を早く見たい。その気持ちで夜遅くまで続く作業を楽しめるものにした。初めて作った絵本には、わが子である輝君とユリカちゃんを登場させた。絵本のページの中に自分たちの姿を見つけると、二人とも目を輝かせて大喜びしたという。

これまで多忙な毎日にもかかわらず楽しいことを求め、腹話術やフリカンドラムなど多彩な活動に挑戦してきた斎藤さん。今は子どもたちも高校生となり絵本から離れたが、「いつか孫にもプレゼントできるような絵本を残していきたい」。彼女の創作意欲は衰えることを知らない。

■編集 白石区役所総務企画課広聴係  
☎003-8612  
札幌市白石区本郷通3丁目北1-1  
☎861-2400 内線224  
FAX860-5236

手作り絵本わらべの会展示会「じゃかじゃかじゃん展」  
6月10日(火)～15日(日)午前9時～午後7時札幌市資料館(中央区大通13丁目)で開催